

# 学生による企画提案活動支援事業活動報告

事業名	みんなで楽しむ音楽鑑賞会 第16回わくわくコンサート
団体名 代表者	第16回わくわくコンサート実行委員会 代表 玉井 亮輔
事業の目的	一般の音楽会に参加することができにくい児童(特別支援学級等も含む)と保護者、サポートの必要な方等を対象とした音楽鑑賞会(「第16回 わくわくコンサート」)を運営し、音楽鑑賞の機会を提供する。またこの事業は、「第1回～第15回 わくわくコンサート」をさらに改善し、継続的に実施することを目的とする。
事業概要	コロナ対応に十分配慮しながら、市民の皆様が安心してコンサートホールに足を運び、音楽を楽しみ、癒しの時間を過ごせる無料のコンサートを開催した。テーマ： <b>Recovery</b> 復活・回復、テーマ地域： <b>EU</b> 、テーマアルファベット： <b>R</b> と設定し、制約のある中でできることは何かを常に模索しながら計画を立てた。香川大学の全学部の学生が実行委員やボランティアとして参加し、各自の得意な分野を生かしながら企画や運営を行った。 <b>OB・OG</b> 、教職員、企業や市民の皆様のご協力も得て、笑顔あふれるコンサートが開催できた。

成果 (参加人数等を具体的に記載してください)

- 日程：令和5年1月29日(日) 13:00～14:30 (12:20開場)
- 場所：レグザムホール(香川県民ホール)大ホール
- 参加人員総数 約1100名  
来場者 約1000名 ・主催者50名 演奏者63名
- テーマ  
全体テーマ：**Recovery** 復活・回復 テーマ地域：**EU** テーマアルファベット：**R**
- コンサート  
プログラム(演奏：指揮：小森康弘 オーケストラ：**Wakuwaku** 室内管弦楽団)
  1. J.S.バッハ：管弦楽組曲 第3番 BWV1068より「G線上のアリア」
  2. W.A.モーツァルト：セレナーデ 第13番ト長調 K.525 「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」
  - ★ L.v.ベートーヴェン：交響曲 第9番 Op.125より「歓喜の歌」(ラップ)
  3. S.ラフマニノフ：ピアノ協奏曲 第2番 Op.18 第1楽章 モデラート
  4. M.ムソルグスキー/M.ラヴェル：展覧会の絵
 没後に再評価された作曲家や作品、再び演奏されるようになった楽器(リコーダー)での演奏、EUの公歌である「歓喜の歌」を**Rap**で演奏するなど、「復活・回復」のテーマに、現代的な要素を取り入れることを意識してプログラム構成を行った。またパンデミックや戦争・侵略を乗り越えて、みんなが平和で過ごせる明るい未来を祈るプログラムとした。
- イベントの再開について  
楽器体験等のロビーイベントについては、今年度も新型コロナウイルスの感染状況をみて中止とした。しかし、可能な範囲で少しずつイベントを再開したいという思いもあり、感染対策がとりやすいステージ上で「大ホールでピアノを弾こう」「指揮者なりきり撮影会」(参加型イベント)を人数制限を設ける形で実施することにした。実際に大ホールのステージに立ったお客様からは大変好評をいただいた。また、ロビーの通路では高松市立山田中学校美術部へ依頼し「EU27か国絵画展」を行った。EU各国をモチーフに生徒たちが描いた絵で、ホールに入る前にEUを紹介するものとなった。他にもコンサート開始前には「EU紹介ビデオ」を作成して上映した。
- 運営について  
今年度はサンポートホールの改修工事に伴い、レグザムホール大ホールでの開催となったが当日は約50名の学生ボランティアスタッフが参加し、コンサートの安全で円滑な運営に尽力した。初めての会場、そして以前より広いホールでの開催となったため、事前にホールの下見や打ち合わせ、スタッフの配置、物品や楽器の移動経路など、考えられる限りの検討を重ねて開催の準備を行い、無事に終了することができた。
- 今後の課題について  
昨年度の感染症対策や反省点を踏まえ、改善した上でのコンサート開催は一定の成果を得られたものとする。コロナからの回復が見えてきた中で、今後は慎重に少しずつイベント等を復活させ、今まで以上に地域の方々に楽しんでいただけるコンサートになればと考える。これからもより一層地域の方々と協力し、新しい発想で挑戦を取り入れながら、この活動を継続していくことができればと思う。

